

# ケーススタディ: エーザイ株式会社 2009年度年次報告書 ファイナンシャル・レビュー

文中において将来について記載した事項は、「アニュアル・レポート2009」作成日現在において当社グループが判断、予想したものであります。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

当社グループの連結業績を大幅に変動させる、あるいは投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクについては、70ページをご参照ください。

## ● 財務ハイライト

医薬品産業は、革新的な治療薬の創出と質の高い情報・サービス・製品の提供を期待される一方、グローバルな医療費抑制策の推進、新薬開発コストの増大、研究開発力強化を企図した大型企業買収や企業再編の活発化、副作用や知的財産等のリスク対応の必要性増大など、大きな環境変化を迎えています。あわせて、世界的な金融危機、経済の低迷が今後の医薬品産業に影響を及ぼすことも予想されております。

このような状況の中、2009年3月期の連結業績は、売上高7,817億円(前期比6.5%増)、営業利益918億円(同417.2%増)、当期純利益477億円(前期比当期純損失170億円)となりました。

売上高については、アルツハイマー型認知症治療薬「アリセプト」が3,038億円(前期比4.4%増)と堅調に推移し、プロトンポンプ阻害型抗潰瘍薬「バリエット」(米国名「アシファックス」)は1,599億円(同9.1%減)となりました。また、制吐剤「Aloxi」の売上高は365億円、DNAメチル化阻害剤「Dacogen」の売上高は151億円となりました。所在地別には、北米、中国が伸長し、日本が堅調に推移いたしました。

研究開発活動への積極的な資源投入があったものの、前期に発生したMGI PHARMA, INC買収に伴うインプロセス研究開発費などの

企業結合会計特有の処理が影響し、営業利益は大幅な増益となりました。

これにより、1株当たり当期純利益は167円35銭(前期の1株当たり当期純損失は59円80銭)となりました。

企業活動の実態を見るため、「GAAPベース」(現行の会計基準ベース)から前期のMGI PHARMA, INC買収に伴う企業結合会計特有の処理(非キャッシュ項目)を除き算出した「実業ベース」での連結業績は、売上高7,817億円(前期比6.5%増)、営業利益1,203億円(同8.6%増)、当期純利益693億円(同2.0%減)となりました。

売上高の増加、販売管理費の効率化により営業利益は増益となったものの、支払利息の増加、投資有価証券評価損、減価損失の計上により「実業ベース」の当期純利益は減益となりました。

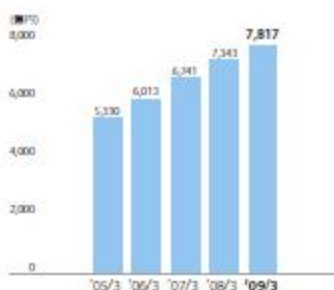
これにより、「実業ベース」での1株当たり当期純利益は243円36銭(前期より5円24銭減)となりました。

また、当社グループは、「キャッシュ創出力」を表す指標として、キャッシュ・インカム<sup>※</sup>を使用しております。キャッシュ・インカムは、成長投資・事業開発、配当支払、借入返済等に使用可能なキャッシュの総額であり、企業の成長性・戦略を検証する尺度と考えております。

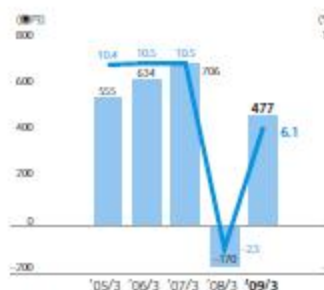
キャッシュ・インカムは1,190億円(前期比11.3%増)となり、1株当たりキャッシュ・インカム<sup>※</sup>は417円78銭(前期より41円96銭増)となりました。

<sup>※</sup> キャッシュ・インカムの算式:  
当期純利益 + 有形・無形固定資産減価償却費 + インプロセス研究開発費 + のれん償却額 + 減価損失(投資有価証券評価減除却)  
<sup>※</sup> 1株当たりキャッシュ・インカムの算式:  
キャッシュ・インカム ÷ 発行済株式数(自己株式控除後)

売上高



当期純利益(損失)/当期純利益(損失)率



主要指標推移

